

～夏～



小川村立屋から見た小川村成就地区



県道長野大町線沿いにある「ふるさとらんど小川」(旧長野県知事公舎)



小川村古山東にある猫檀家伝説の残る法蔵寺(ねこ寺)



猫塚の由来



板東三十三番観音石仏群(小川村川手)



リップルマーク(さざ波の化石)



本州の重心地「本州のへそ」(小川村法地)



大町市美麻は松本藩領であり、藩境の小川村(松代藩領)には、日影、桐山、立屋の三箇所口留番所が設置されていました



日影口留番所(小川郷小根山村御口留番所)跡

小川村大字小根山三五五番地 旧菅野信夫宅
昭和五十二年九月二日 小川村重要文化財史跡指定

番所制度は江戸幕府の統治方針によって、各藩が設置したものであり、番所は主として反乱や騒乱の防止にあつた。松代藩(真田十方石)においてはこの番所制を藩の産業政策にも利用したといわれている。

即ち藩境の街道筋に、口留番所を置き、番所役を置いて、人、および馬の出入り、物資の出入を制限した。真田信之が松代へ入つて三年目の寛永二年(一六五五)に設置したと推定される。すなわち同年十一月十一日金井善兵衛に番所の監督を命じている。

(信濃史料二十四巻三三三頁)

旧真田家書によれば寛永五年(一六五二)には二十個所が整備されていた。小川村には立置口留番所(一六四九)桐山口留番所(一六六七)日影口留番所(一七二二)の三個所あり、それぞれ開設時期は異なっているが、誓固、用心のため刺股・突棒・袖摺のいわゆる三道具が置かれ、番所役人は藩の職制上は足軽格であつたといわれている。

明治二年(一八八九)、藩街道の關所が廃止され、明治四年(一八七二)七月廃藩置縣とともに松代藩も廃止され松代県と改められた。明治五年三月、番所廃止にともなつて、三つ道具返還の通達が出されたが各口留番所では、家の家主としたいと願ひて許されている。明治五年七月、長野県から格條廃止という通達があり口留番人の手当も廃止された。

歴代日影口留番所役人

初代 安政 信濃国松代藩士

元巻四年(一六九〇)、宝曆十三年(一七六〇)享年七十歳

正徳元年(一七二二)初代安政は、干慮の時に松代藩三代当主真田幸道公の家臣となり、小根山村口留番所役人を申し付けられ、倉庫切米拾俵と高松石分の請役御免除を賜る。

二代 菅野金兵衛安直

三代 菅野金右衛門

四代 菅野金吉

五代 菅野義治郎

六代 菅野金石衛門

七代 菅野金石衛門安久

八代 菅野金石衛門安忠

以後の歴代当主

九代 菅野慶馬

十代 菅野湖三次

十一代 菅野竜若

十二代 菅野信夫

菅野慶馬より明治十八年九月相繼

平成一十四年番所跡を小川村に寄付

番所の建替は享保元年(一七二〇)と弘化元年(一八四四)。修繕が数回小根山村上野村、竹生村、花尾村、夏和村の五村の分担にて夫々全部普請金は村が三分の一負担し、三分の二は領主より下賜された。

番所の高札
高札(法度、禁令、犯罪の罪状などを記し、一般に告示する)高く掲げた木の札は松代藩に四十一カ所あり、内十一カ所は口留番所にあつた。その(一)が日影口留番所である。高札場は番所の前東側にあつたが、明治三十五年(一八六二)に番所と母屋、四十四年には蔵も失う大火となり、三つ道具や古文書類の多くを焼失したが高札二枚は難を免れて現存する。

平成二十一年三月 小川村教育委員会

読み下し文 覚

阿片、煙草は体に害があつて命を縮めるので、御采納で外国人の持ち渡ることを厳禁しているが、近頃隠れて持ち込む者があるらしいので、万一世の中へ広がれば、人民に大害を与えるので、売買は勿論、決して吞んではいけない若し御禁制を犯せば厳罰に処する。末々に至るまで堅く相守るべき者也

慶応四年閏四月

太政官

読み下し文 覚

今般王政御一新を迎え朝廷が万国と直接御交際になられるので、御旨を奉戴し、心得違ひのないようにし、外国人を殺害したり、不心得の所業のないようにする事、若しあれば困難にもなり、皇國の御威儀も立たなくなる。たとえ土族であつても、その土籍を削る。銘々朝命を奉り、暴行などないように仰せ出候事。

慶応四年三月

太政官



日影口留番所跡



桐山口留番所跡



立屋口留番所跡



虫倉山登山口にある薬師洞窟(小川村稲丘東)



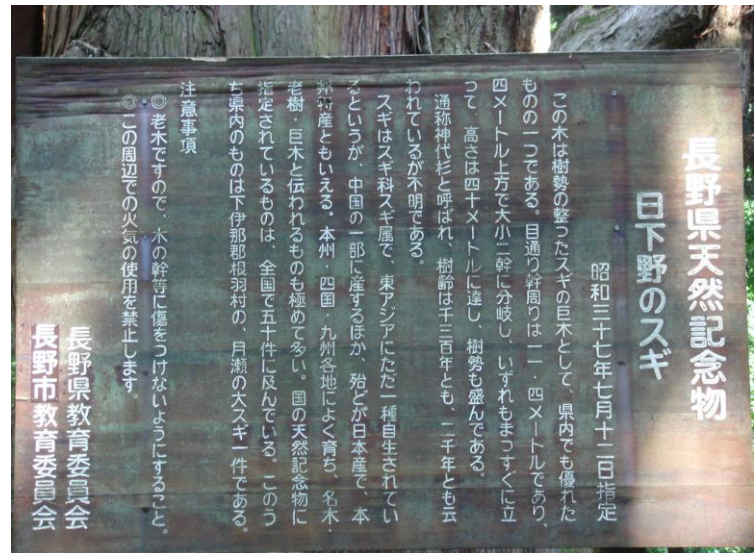
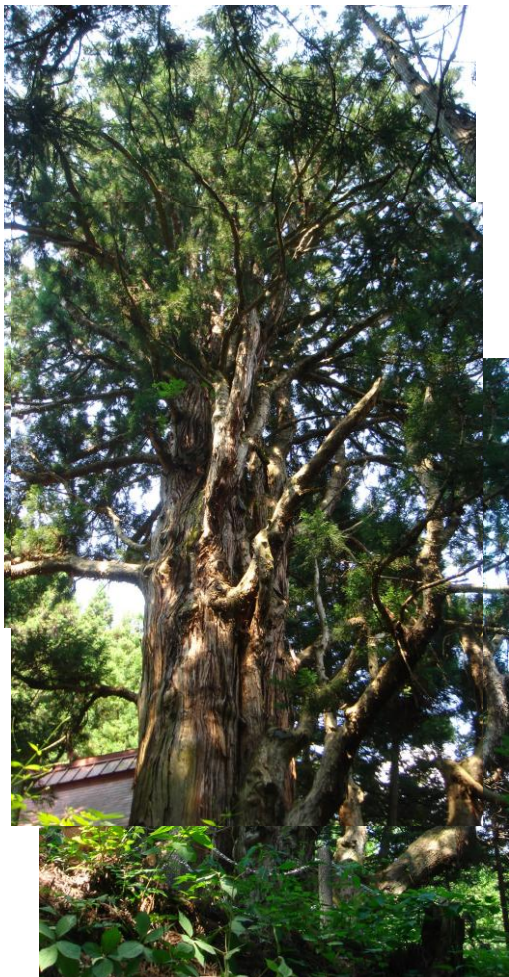
薬師洞窟近くの展望台から見た小川村稲丘東地区



虫倉山登山口(長野市中条)にある山姥の像



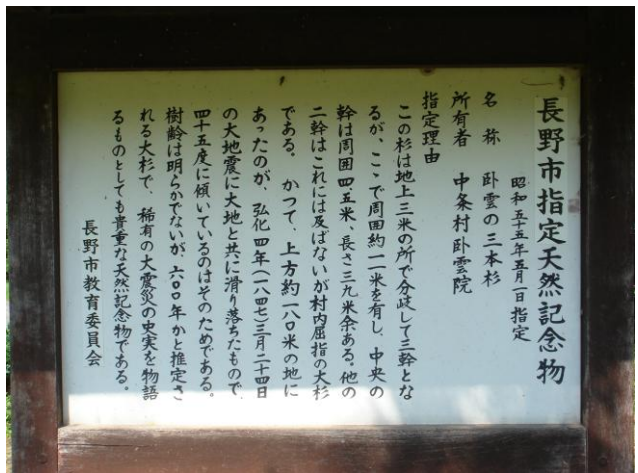
田植えの終わった長野市中条御山里の棚田



樹齢1300年以上と云われている
日下野の杉(長野市中条日下野)



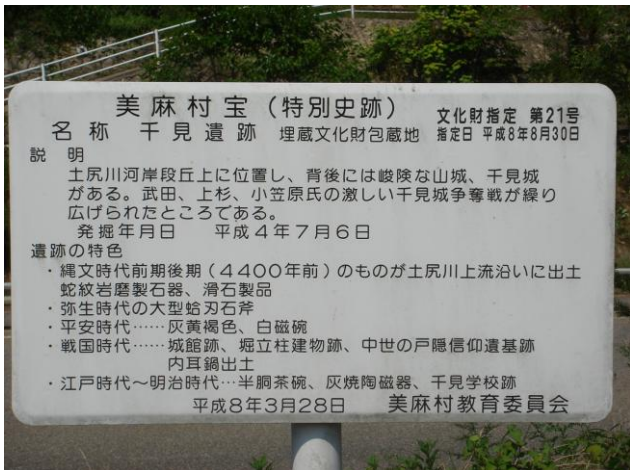
嘉歴3(1328)年開基の古刹、七不思議を伝承する臥雲院(長野市中条日下野)



弘化4(1847)年の善光寺地震で180mも滑り落ち45度に傾いている臥雲の三本杉



信濃三十三番札所の三十番、雨乞いと縁結びの寺、正法寺(長野市中条日下野)



縄文、弥生、平安、戦国時代の千見遺跡(大町市美麻千見)



寛政6(1794)年に社号免許を受けた延喜式内清水神社(長野市信更町田野口)